

パンタナーール通信

南北米福地開発協会 会報 2005年4月1日発行 第19号



レダ基地内で植樹した木々も上の写真で見るようになります。順調に育つております。此処での植樹活動をモチーフとしてパラグアイ国土地の五十%を占めるチャヤ土楽園になります。最近のレダ基地は木々の成長とともに野鳥が集まり野鳥園になっています。

藤岡君(真ん中)、水産大学を卒業し、今後のパンタナーールでの水産の可能性を調査するため三月五日に日本を発ち、レダ基地を訪問、現地スタッフに迎えられます。今後は日本にてレダ基地での体験を下に準備期間を持ち、次に行く時に長期滞在をする予定にしています。



レダ基地にて

四月十六日(土)

一日研修会(環境初級セミナー)

午前十時開始 五時終了

三千円(昼食付き)

南北米福地開発協会事務局

神奈川県川崎市溝の口三十一十五

当協会事務所にて

場所

電話 ○四四一八一九二八二一

○四四一八一九二八二一

ファックス



田岡功駐日パラグアイ全権大使を招いての講演会の日程と会場が変りました。

日程 四月二十四日、午後二時から4時

会場 新大宗ビル一号館 フォーラムハ

電話 ○三一三七八〇〇〇〇八

既に発行のチケットはそのまま使用できます

千葉県柏にて研修会開催。(三月十九日—二十一日)



パンタナールの自然の写真展示



講義をする飯野事務総長



研修会参加者



小学生クラス

柏での集会は家族連での参加で、まだ外は肌寒い気候でしたが素晴らしい自然環境の中で子供達も楽しいひと時を過ごしました。

パラグアイ大使館主催マテ茶会に飯野事務総長、柴沼事務局長が招待される。3月14日（大使館）

レダ基地開発責任者中田実氏帰国報告会 3月13日（川崎市高津市民館にて）



田岡大使、チラベルト氏（前パラグアイ サッカーナショナルチームのキャプテン）とともに



レダ基地内植樹活動は順調に進んでおり、特に昨年建設した給水塔が大きな働きをしていることを強調された。

地球の緑を守る会（NPO法人）が南米、パラグアイ国の南北米開発財団の自然保護地レダにて植樹活動（2005年1月30日-2月24日）



植えつけから2年10ヶ月たったユーカリ
(2005.2.21撮影) 計測スケールは5m



二〇〇一年四月から南北米福地開発協会との協力で始まりたパンタナール植樹も今回で通算七回目となりました。地球の緑を守る会のスタッフが一月三十日に成田を出発、二月二十四日まで現地に滞在、昨年度申し込みの方々の苗木を植えつけました。この時期、アルトバラグアイ州チャコ地方は年間で最も気温が高く、給水回数や四十度を越す直射日光からの保護など、植えつけ後の苗木のケアに苦心しました。

（地球の緑を守る会
高津事務局長の報告）

『パンタナールの牧場跡地に森を再生する』このプロジェクトは、地球温暖化を、森林が持つ炭酸ガス吸収機能を使って緩和すること、また自然林を造成することでパンタナールの希少動物オオアリクイ、アルマジロ、スミレコンゴウインコなど絶滅危惧種の保護を目指しています。

ちなみに温室効果ガスを吸収させる大規模植林は石油、電力などのエネルギー関連企業や製紙企業のあいだで、2千年前頃からオーストラリアで行われるようになりました。千ヘクタールのユーカリ林をつくった場合、年間約一萬トンの炭酸ガス吸収効果があると試算されています。これは世界的な炭酸ガス排出規制に対処（削減目標達成のための排出権獲得）しなければならなくなつた大型企業サイドの十年計画のプロジェクトで、植えつけ後の育林作業や管理費など、各社約二億五千万円程度の予算が当てています。

ユーカリはオーストラリア原産種ですが、当会が現在行っている植樹場所でもユーカリの良好な生育はすでに確認されており、温室効果ガス吸収を目的とした大規模植林も将来十分可能と思われます。

今回実施した植えつけと並行して以下の作業を行いましたので報告いたします。

育苗所の設置

種まきからポット苗育成までを現地で行うための五百坪の育苗所を建設。ヤシの木を柱とし屋根にあたる部分に太陽光線約60%カットの遮光ネットを張つたもので四千～五千鉢のポット苗を育成可能。

育苗所で実生で育つた苗は植樹場所の気候や土質になじみ、植えつけ後の着生率が百%に近くなる。また、イペー、チバト、ジャカランドなどの花樹、マンゴー、アボガド、グレープフルーツなどの果樹、ユーカリ、マツなどの用材樹、その他試植用樹種を含む約40種を常時ストックできる。現地に“育苗センター”を完成させることは、必要なとき必要な場所に目的に応じた植樹を即座に行う上で、また今後の規模の大きい植林に備えての不可欠なステップ。

従来は植林現場から八百km離れた都市部から陸路と船で五日の行程を運んだため苗木がストレスを受け、根が衰弱したり事実上枯死することも少なくなかつた。今後は育苗所の開設でそれらが解消される。

会員の記念樹“マイ・ツリー”にネームステイクを設置

次回の現地での植えつけは六月を予定しています。会員の皆様の継続的なご支援ご鞭撻に支えられてきたことにあらためて感謝しながら、“森づくり”的な経過報告とさせていただきます。